

EU Indicators

欧州経済指標コメント：1-3月期ユーロ圏GDP二次速報値

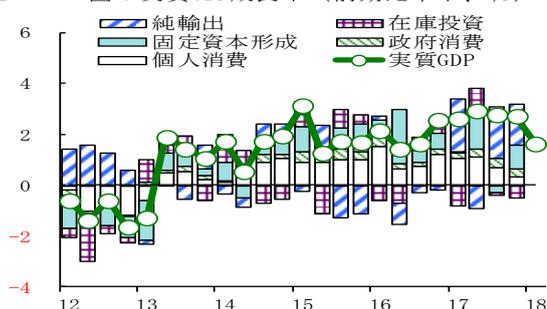
発表日：2018年5月15日(火)

～急ブレーキ確認も建設好調の謎～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

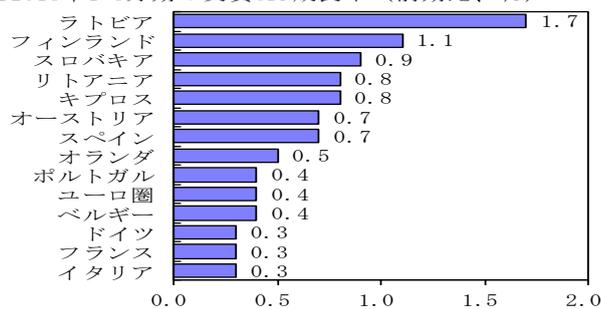
- 1-3月期のユーロ圏実質GDP成長率の二次速報値は前期比+0.4%と一次速報値から不変（前期比年率では+1.7%→+1.6%に下方修正）。一次速報で示されていたように、過去数四半期の年率3%近くの高成長から急ブレーキ。国別には、ドイツ（昨年10-12月期：同+0.6%→1-3月期：同+0.3%）、フランス（同+0.7%→同+0.3%）、オランダ（同+0.7%→同+0.5%）など多くの国で前期から減速した一方、イタリア（同+0.3%→同+0.3%）やスペイン（同+0.7%→同+0.7%）が不変。
- 需要項目別の詳細は6月7日の確報値で公表されるが、既報のフランスの計数では、公共投資の増加ペースがやや加速、前期に大きく落ち込んだ在庫投資の寄与度がフラット圏に復帰した一方、企業設備投資の増加ペースが鈍化、輸出の落ち込みから外需の成長押し上げがなくなった。また、ドイツの細かい内訳はまだ発表されていないが、連邦統計局の発表によれば、設備投資が建設・機械ともに増加した一方、個人消費が減速、政府消費が5年振りに落ち込み、純輸出の寄与度（輸出入がともに減少）が鈍化した。建設投資の増加は、2～3月の大雪で建設活動が低迷したとの伝聞情報と食い違う。新政権が部分的な財政拡大を示唆していることから、政府消費の減少は一時的なものと判断。
- 1-3月期の成長率は、天候要因やストライキの影響で下振れしたとみられるほか、これまでの出来すぎの高成長が修正された。先行きは一時的な下押し要因が剥落するほか、失業率の低下と賃金上昇が加速傾向にあるなど、雇用・所得環境が好調で、内需が景気を下支えするとみられるものの、世界景気に対する過度な楽観論が後退するなか、昨年の高成長の再現は期待できない。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2018年1-3月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
16/4-6月期	1.9	1.4	(2.3)	1.2	1.1	10.8	(▲ 0.7)	▲ 0.8	5.6	8.2
16/7-9月期	2.3	1.7	(1.9)	1.4	0.8	2.5	(0.5)	▲ 0.3	1.7	2.5
16/10-12月期	4.1	2.6	(2.7)	2.3	1.1	2.9	(0.7)	▲ 0.2	6.2	7.1
17/1-3月期	3.2	2.6	(0.6)	2.0	1.0	0.4	(▲ 0.8)	▲ 2.1	5.6	1.3
17/4-6月期	4.9	2.9	(3.8)	2.0	1.6	8.4	(0.7)	▲ 0.9	4.7	7.3
17/7-9月期	4.1	2.8	(0.7)	1.3	1.8	▲ 1.3	(▲ 0.1)	2.1	6.8	2.6
17/10-12月期	3.6	2.7	(1.1)	0.7	1.3	4.7	(▲ 0.5)	1.6	9.3	6.4
18/1-3月期	—	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。